

非接触近接センサー

東京センサ、ロボ用参入

障害物検出に静電容量型

東京センサ（東京都江東区、霜越明社長、03・3820・2300）は、2016年度中をめどにロボット用の非接触近接センサーに参入する。200ミリ程度離れた位置の障害物を検出できる静電容量型センサーを投入予定。自走式サービスロボット、無人搬送車（AGV）、人と協調する産業用ロボットなどでの利用を見込む。価格を数万円に抑え、レーザースキヤナーなどの代替品として提案する。年間1500セットの販売を目指す。



非接触近接センサーを組み込んだバンパー

開発中のセンサーはアルミニウム蒸着で電極を形成したフィルム状の製品。AGV用のバンパーなどに組み込むことができる。「条件によっては300ミリ程度離れた物体も検出できる」

出でできる」（技術部）という。ロボットに障害物が接近した時に自動停止する安全機能などで利用可能。同じ用途ではレーザースキヤナーが普及しているが、一般に10万円以上するため、同社は価格を数万円に抑え対抗する。コスト面のほか、アンテナの形状や向きにより指向性を制御できる点も強みだ。

同社は産業機械やAGV用の接触式安全センサーが主力。ロボット市場の拡大を見込み、非接触式への参入を決めた。両タイプのセンサーを持つことで、ロボットメーカーなどにさまざまな角度から提案できるようにする。